

令和5年度第4回大和市社会教育委員会議定例会（第33期） 会議録

会議名（審議会等の名称）		令和5年度第4回大和市社会教育委員会議定例会（第33期）
開催日時		令和6年2月19日（月曜日）午後3時30分～午後4時30分
開催場所		文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター610大会議室
出席状況	委員	11人：伊藤（仁）委員、伊藤（能）委員、大川委員、小森委員、小早川委員、齋藤委員、中村委員、中山委員、藤倉委員、長谷部委員、丸田委員
	関係各課	3人：文化振興課長、図書・学び交流課長、スポーツ課長
	事務局	2人：図書・学び交流課学び交流係長、同係員1人 学び交流係（259-6104）
	傍聴人数	0人
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
非公開・一部非公開の場合はその理由		
審議又は検討経過及び結果		<p>1 会議次第</p> <p>（1）報告事項</p> <p>1）健康都市やまとMANABI計画（大和市生涯学習推進計画）について</p> <p>2）令和5年度社会教育委員に関する研修会等について</p> <p>（2）その他</p> <p>2 審議及び結果</p> <p>主な内容は次のとおり</p> <p><報告事項></p> <p>1）健康都市やまとMANABI計画（大和市生涯学習推進計画）について</p> <p>（市）事務局より次のとおり説明。前回11月の社会教育委員会議でご意見を頂いた計画の延伸案について、頂いたご意見を反映させ『健康都市やまとMANABI計画（大和市生涯学習推進計画）別冊』を作成し、2月14日に行われた教育委員会定例会にて教育委員への説明を行った。</p> <p>別冊の内容について、P8の「学習団体による講座等参加者」の現状値が3,281人となっているが、正しくは3,218人なので訂正をお願いしたい。</p> <p>（議長）ご意見やご質問はあるか。報告事項であるため、無ければ計画の延伸はこのとおりまとまったので、ご承知いただきたい。</p> <p>2）令和5年度社会教育委員に関する研修会等について</p> <p>（議長）各委員より、出席した研修会等のご報告をお願いしたい。</p> <p>【11/29 知ることからはじめる人権啓発研修講座】</p> <p>（委員）講師はオンライン、参加者は会場に集まっての開催であった。講師が来ないのであればオンライン開催でもよいのではないかと考えたが、参加者同士で相談しながら進めていく方式であったため、納得した。インターネットでの誹謗中傷を無くすのはなかなか難しいので、なぜそれが起こるのかというところから確認していくという内容であった。5枚のカードが配られ、「一生懸命だね」「まじめだ</p>

ね」「マイペースだね」「個性的だね」「おとなしいね」を自分が言われて嫌だと思う順番に並べ、周りの人とどれだけ違うかを話し合った。同じ言葉でも誉め言葉として捉える人がいれば、変わっている人というニュアンスで捉える人もいるので、捉え方は様々で、自分が嫌だと思うことと他人が嫌だと思うことはかなり違うということを実感した。そのため、相手の気持ちを慮ることが大事だということであった。特にインターネットでは顔が見えず、言葉のニュアンスも伝わりにくいので、相手を慮る必要性や重要性を実感することができ、とても役に立つ研修であった。

(委員) 5枚のカードの並べ替えで、自分が言われて嫌だと思った人が一番多かったのは「マイペースだね」という言葉であった。とても大事なことを話されていて非常に勉強になったが、子どもにとって相手の気持ちを押し量るということはなかなか難しいことだと思った。

【1/26 神奈川県公民館連絡協議会第 65 回県公民館大会】

(委員) 今年度は綾瀬市で開催された。まず初めに大会の式典があり、続いて文教大学准教授の青山鉄兵先生の講演があった。10 月に行われた県央教育事務所の社会教育委員連絡会議でも青山先生の話聞いたが、そのときと同様にスグキクというアプリを使用し、会場にいる人がスマホで講演の内容について感想や質問を送ると、すぐにスクリーン上に映し出され、それに対して青山先生がコメントしながら進めていくという形で講演されていた。今回の公民館大会は「障がい者の生涯学習のために公民館ができること」というテーマがあり、それを受けての講演であった。改正障害者差別解消法が 2024 年 4 月 1 日に施行し、事業者による障がい者への合理的配慮の提供が義務化されるため、生涯学習、社会教育の場においても考えていかなければならないという話であった。その中で「Nothing about us without us (私たち抜きに私たちのことを決めないで)」について話をされていた。障がいのある方の生涯学習の場を考えていく上で、当事者である障がい者も一緒に考えていくことが必要だということである。今回の会場である綾瀬市の中央公民館は、障がいのある方を交えた場づくりができていると感じた。そこで活動されている方々がこの後パネルディスカッションで登場して話をされるが、「私たち抜きで私たちのことを決めないで」ということが一つのキーワードになっているということを感じた。青山先生の話の中で、障がいのある方のために何かをするのではなく、健常の方も一緒に何かする共生社会の実現というのが社会教育、生涯学習の推進の中でも非常に大切であるということ話を聞いて印象に残った。障がいの有無を超えてお互いに学び合う姿勢を持っていこうという話であった。続いての講演は、NHKのEテレ、手話ニュース 845 キャスターの那須さんからの話であった。那須さんは全聾のため手話で話し、その内容を手話通訳の方が同時通訳で音声に変えていた。綾瀬市の中央公民館で那須さんが関わったことを紹介し、このようなことを公民館でやってほしいという話であった。最後に行われたパネルディスカッションでは、青山先生がファシリテーターとなり 3 人のパネリストが登壇した。1 人目の国立市

公民館の井口さんは、公民館でのコーヒーハウスの取り組みを紹介されていた。「しょうがいしゃ青年教室」と「喫茶わいがや」を合わせたものがコーヒーハウスであり、障がい者だけの活動ではなく、障がいの有無に関わらず学び合う活動を中心に行っているとのことである。一緒に活動する若者スタッフの多くが障がいのある方と接した経験がほとんどない方々だが、それがかえって障がいのあるなしに関わらず同じ目線で話し合うことのできる共生の場になっているという話であった。2人目の神奈川県聴覚障害者福祉センター施設長である熊谷さんは聴覚障害がある方で、障がい者の社会参加の手助けをどのようにするかという話をされていた。3人目の玉城さんは、障がい者のグループホームを経営されている方で、その立場からの話があった。綾瀬市の職員が日頃から中央公民館の事業を障がいのある方と一緒に進められていることが随所に感じられた。大和市も学ぶところが多くあると感じた。来年度は寒川町で大会が行われるということで、大会旗が寒川町へ引き継がれた。

(委員) 嬉しいことに、優良公民館表彰で大和市の渋谷学習センターが表彰されたので、ご報告させていただく。青山先生は手話もできるということで、奥の深い方だと思い感動した。また、同時手話通訳の方が私たちに分かるように話してくれたことに感心した。私も手話ができるようになりたいと思った。青山先生の話で心に残ったのは、障がい者のためではなく、障がい者とともにということで、一例として、耳の聞こえない方が集まる飲み会があり、その時に青山先生も一緒に行って会計係をしたという話をされた。参加者は耳の不自由な方々なので、全員手話で会話していた。青山先生も手話はできるのだが、分からないところもあり、その人たちの中に入ると、自分が障がい者であると感じたと話していた。人は場面が変われば立場が変わってくるということで、共に生きていくということが大きな課題だと思った。

【1/27 神奈川県社会教育委員会議連絡協議会地区研究会（開成町会場）】

(委員) 開成町の紹介の中で、阿波踊りが大きな行事の1つであると紹介されていた。始まったきっかけは、大和市の阿波おどりを見た当時の開成町の町長が、町おこしのためにトップダウンで始めたとのことである。研究発表の内容は、本の良さを知り、本に戻れる環境づくりということで、取り組みとしては子ども、若者、大人それぞれの世代に向けたアプローチを行ったとのことであった。その後、ALSの方による人権講和があった。開成町では今までALSになった人がいなかったため、最初は支援の体制が整っておらず苦労したことなど、ALSになってから現在までの経緯をお話してくれた。足しか動かすことができない状態なので、足でパソコンを操作して作成した原稿を、補助の方が代読する形であった。

(委員) 会場が小学校ということで、行く前は寒いのではと思っていたが、ホールが円形で全面ガラス張りになっていて、非常に明るく暖房もよく効いており、小学校とは思えないような印象を受けた。ホールのガラス窓からは金時山の奥に富士山が見え、とてもよい環境で研修を受けることができた。本の良さを知り、本に戻れる環境づくり

というのがテーマだったが、私たちが家庭教育支援を数年かけてきたのと同じように、開成町の社会教育委員9名のテーマとして取り組んできたということであった。内容としては、ハード面の充実というよりはソフト面でお金を掛けず、知恵と工夫でできることがあるのではないかとということで取り組んでいる印象を受けた。開成町は面積としては東日本で一番小さな町で、人口が18,090人という中で、町立の学校に通う子どもは人口の1割近くに当たる1,670人ということで、若い世代が多い町だという印象を受けた。会場までは駅を降りて10分ほどかかるが、駅前から区画整備がされていて、新しい住宅がどんどん建てられていた。新宿まで小田急線1本で行けることもあり、これから若い世代が増えていくのではないかと思った。小さな町には小さな町の良さがあるということで、社会教育委員が情報発信したことが町民や学校に伝わったり、プレーパーク的なところに本を置いて子どもたちが読む環境を作ったり、児童書専門店というボランティアの方が絵本の展示をして紹介するなどの取り組みを一生懸命やられていてとのことであった。大和市と比較すると人口は圧倒的に大和市が多く、規模が大きければ大きいほど情報発信が上手く伝わらないと感じた。これからは縦の情報発信から、横に横に発信していけるようなシステムを構築していくと良いのではないかと思った。人権講和では、筋萎縮性側索硬化症の方が登壇されたが、声を出すことはできず、足が少し動くだけということであった。足の指でパソコンを操作して自分の考えを伝えることができるということで、本人が作成した資料を義理の弟であり社会教育委員の方が、本人の代わりに言葉にして伝えてくれた。2016年にALSを発症したこと、最初は腕に力が入らない状況だったこと、様々な病院に行ったこと、次第にいろいろなところが動かなくなってきて、気管切開して人工呼吸器を付けたり、胃ろうになったりしたことなど、現在に至るまでのことを報告された。医者からは放っておけば3～5年で死亡すると言われていたが、まだ自分は生きることができていると話していた。今後の夢としては、車で出かけてライブを楽しんだり、ディズニーランドへ行ったり、友人に会ったり、これからもずっと家族の笑顔を見たいということ話をされた。生きること、命を大切にすることというのを学んだ。この開成町は、北部をふるさとゾーン、中部をくらしゾーン、南部をときめきゾーンの3つに分けて計画的にまちづくりをしているとのことである。また、人口増加率は県下一である。

【2/15 神奈川県社会教育委員会議連絡協議会地区研究会（寒川町会場）】

（委員）まずアトラクションとして、アーバンスポーツの魅力発信ということで、BMXフリースタイルのフラットランドという種目を、プロライダーの田園さんが演技された。BMXの自転車は特殊で、ブレーキが無くその場で回ったりすることができる。フラットランドという競技はフリースタイルで、ルールは足が地面についてはいけないということのみということであった。寒川町は2019年にBMXとスケートボードの練習施設、「ザ・パーク」を誘致し、町おこしとして力を入れているとのことである。2月23日から江ノ島で

世界大会が開かれるようで、この日演技された田園さんも出場されるとのことである。次に、人権講和については、「不登校・引きこもりの悩みー地域でつながる・よりそう・認め合う」というテーマで、279（つなぐ）smile 湘南を運営されているメンバーの方からの報告であった。279 smile 湘南は、子どもの登校に悩みを抱える保護者が、リラックスでき互いに学びあい支えあうための集まりで、2015年から始まったとのことである。「茶和会」や「遊びとおしゃべりの会」などの場所づくりをしているとのこと。子どもの主体性を認めてあげることが大切ということ、学校に行けなくなる子どもが100人いたら100人それぞれの事情があること、学校に行けないことだけが問題ではないということなどの話が心に残った。最後に、社会教育委員からの事例発表があった。寒川町の社会教育委員は全員で10名だが、5名ずつに分かれて公民館部会と図書館部会が組織されている。それぞれの部会で取り組んできた町の活性化に向けた取り組みを紹介された。公民館部会では、「全ての世代が集う公民館を目指して」というテーマで研究されたとのことである。市内公民館の利用状況を調べると、男女比では女性が多く、年代では60代、70代が多かったため、男性や若い世代の利用者を増やすための検討をされたとのこと。まずは公民館を知ってもらうため、公民館の利用ガイドを作成し、全戸配布したとのことである。また、公民館活動に参加してもらうための魅力的な講座を開催したとのこと。例えば、男性が興味のある、そば打ち体験や歴史の講座、親子で参加してもらえるような講座を開催するなど、講座の工夫をしたとのことである。公民館活動が継続されるための方策としては、サークル活動への参加を促したとのこと。高齢化などにより活動している団体が減少している中、どのようにしたらよいか考えたところ、サークル入会体験フェスタやサークル同士の情報交換会を行ったとのことである。大和市でも同じような悩みが出てくると思うので、非常に参考になった。図書館部会では子どもの読書活動について検討したとのこと。子どもは本を読むことで考える力や想像力を身に着けることができるが、最近は読書離れが進んでいるので何かできることがないか考えたとのこと。事例として、図書館内での展示や様々な体験ができる「図書館まつり」、夏休み期間中に本を読んでスタンプを集めるとプレゼントがもらえる「わくわく読書マラソン」、県内初となる「さむかわジュニア司書制度」などを実施した。さむかわジュニア司書制度は、必須講座、実習体験を受講し、楽しみながら図書館利用術を学ぶことができ、ジュニア司書に認定された方には、図書館で実施している事業を手伝ってもらっているとのこと。また、読み聞かせ活動として0歳児の7か月健診でのブックスタート、図書館・公民館でのおはなし会、ボランティアによる小学校での読み聞かせなどを実施した。読書活動をよりよくするため、図書館ボランティアの育成、学校図書館との連携、地域の多様な主体との連携・協働、図書館講座の開催などが必要との事であった。

（市）次回（第1回定例会）の日程は、4月を予定している。

	<p>① 22 日（月）午後 3 時 3 0 分から（2 名欠席）</p> <p>② 24 日（水）午後 3 時 3 0 分から</p> <p>③ 25 日（木）午後 3 時 3 0 分から（2 名欠席）</p> <p>④ 26 日（金）午後 3 時 3 0 分から（1 名欠席）</p> <p>⑤ 30 日（火）午後 3 時 3 0 分から（2 名欠席）</p> <p>（議 長）では、全員が出席可能な 4 月 2 4 日（水）に決定してよいか。</p> <p>（委 員）異議なし。</p> <p>以上で議事を終わる。</p> <p><閉会></p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 5 年度第 4 回社会教育委員会議定例会（第 3 3 期）次第 ・ 第 3 3 期大和市社会教育委員名簿 ・ 資料 1 健康都市やまと MANABI 計画(大和市生涯学習推進計画)別冊 ・ 資料 2 令和 5 年度年度社会教育委員に関する研修会等